

## 基礎研修 第14回:感染症対策と健康管理

### 1. はじめに:子どもたちの笑顔を守る「見えない盾」になる

基礎研修第14回のテーマは「感染症対策と健康管理」です。

子どもたちが集団で生活する施設において、感染症の発生をゼロにすることは不可能です。しかし、正しい知識を持ち、適切な対策を講じることで、その感染拡大を最小限に食い止め、子どもたちの健康被害を防ぐことは、私たちの重要な責務です。

感染症対策は、いわば子どもたちの健康を守る「見えない盾」です。この研修では、その盾をより強く、確実なものにするための3つの要素を学びます。

- 敵を知る: 主な感染症の知識
- バリアを張る: 実践的な消毒と清掃
- 変化を見逃さない: 日々の健康観察

これらの専門的な知識と技術を身につけ、子どもたちが毎日元気に、そして安心して過ごせる環境を、私たちの手で築いていきましょう。

---

### 2. 敵を知る:主な感染症の知識と対応

感染症対策の第一歩は、敵であるウイルスの特徴を知ることです。ここでは、集団生活で特に注意すべき感染症と、その対応について学びます。

#### ① 主な感染経路

- 飛沫(ひまつ)感染: 感染者の咳やくしゃみなどで飛び散った小さな水滴(飛沫)を、他の人が吸い込むことで感染する。(例: インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ)
- 接触(せつしょく)感染: 感染者が触れたドアノブやおもちゃなどに、他の人が触れ、その手で口や鼻を触ることで感染する。(例: ノロウイルス、ロタウイルス、手足口病、ヘルパンギーナ)
- 空気(くうき)感染: 飛沫の水分が蒸発し、ウイルスだけが空気中を漂い、それを吸い込むことで感染する。感染力が非常に強い。(例: 麻疹(はしか)、水痘(みずぼうそう)、結核)

#### ② 主な感染症と登園基準

施設内での感染拡大を防ぐため、学校保健安全法に基づき、多くの感染症には「出席停止期間(登園の目安)」が定められています。

感染症	主な症状	潜伏期間	登園の目安(出席停止期間)
インフルエンザ	38度以上の急な発熱、頭痛、関節痛、倦怠感	1～3日	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては3日)を経過するまで

感染性胃腸炎(ノロ、ロタ等)	嘔吐、下痢、腹痛、発熱	1～3日	嘔吐、下痢の症状が治まり、普段の食事がとれること
手足口病	手のひら、足の裏、口の中に水疱性の発疹	3～5日	発熱や口の中の水疱の影響がなく、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	39度以上の急な発熱、喉の奥に小さな水疱	2～4日	解熱し、喉の痛みがなくなり、普段の食事がとれること
水痘(みずぼうそう)	全身の発疹(赤み→水ぶくれ→かさぶた)、発熱	約2週間	すべての発疹がかさぶたになるまで

【重要】

登園を再開する際は、医師が記入した「登園許可書」や「意見書」の提出を保護者に求めることが、施設全体の安全を守るために必要です。

### 3. バリアを張る:実践的な消毒・清掃

感染経路を断ち、施設内にウイルスが広がるのを防ぐための、具体的な消毒・清掃方法を学びます。

#### ① 日常の基本:正しい手洗い

手洗いは、接触感染を防ぐ最も簡単で、最も効果的な方法です。職員自身が正しい手洗いを実践し、子どもたちにも丁寧に教えていく必要があります。

- タイミング: 外から帰った時、食事やおやつの前、トイレの後、鼻をかんだ後など。
- 方法: 石鹸を十分に泡立て、指の間、爪、手首まで、30秒以上かけて丁寧に洗う。

#### ② 玩具の消毒

子どもたちが口に入れたり、頻繁に触れたりする玩具は、定期的な消毒が必要です。

- プラスチック製のおもちゃ: 0.02%(200ppm)の次亜塩素酸ナトリウム液に10分間浸し、その後水洗いして乾燥させる。
- 布製・木製のおもちゃ: 日光に当てて、よく乾燥させる(日光消毒)。

#### 【演習】嘔吐物の処理:感染拡大を防ぐための最重要スキル

ノロウイルスなど感染性胃腸炎の嘔吐物には、大量のウイルスが含まれており、不適切な処理は大規模な集団感染を引き起こす、最も危険な感染源です。以下の手順を、全職員が迅速かつ正確に実践できるようにしておく必要があります。

- <準備するもの>
  - 使い捨てのマスク、手袋(2枚重ね)、エプロン、シューズカバー

- ペーパータオル、新聞紙
  - ビニール袋(2枚)
  - 0.1%(1000ppm)の次亜塩素酸ナトリウム液
  - <処理手順>
    1. 換気と隔離: すぐに窓を開けて換気し、他の子どもを別の部屋へ避難させる。
    2. 防護具の装着: マスク、エプロン、手袋などを装着し、自分の身を守る。
    3. 静かに拭き取る: 嘔吐物の上にペーパータオルをかぶせ、外側から内側に向かって、静かに、そして広範囲に拭き取る。
    4. 消毒: 嘔吐物があった場所を中心に、0.1%次亜塩素酸ナトリウム液を浸したペーパータオルで、広めに覆い、10分間おく。その後、水拭きする。
    5. 廃棄: 使用したペーパータオルや防護具は、すべてビニール袋に入れ、口を固く縛る。さらに、もう一枚のビニール袋に入れて、二重にして廃棄する。
    6. 手洗い: 最後に、石鹸と流水で、念入りに手を洗う。
- 

#### 4. 変化を見逃さない: 日々の健康観察のポイント

子どもは、自分の体調不良をうまく言葉で伝えることができません。私たちが、子どもの「いつもと違う」という小さなサインに気づくことが、感染症の早期発見・早期対応に繋がります。

##### 朝の受け入れ時の視点

保護者からの情報(昨夜の様子など)と、私たち自身の観察の両方が重要です。

- 機嫌: いつもよりぐずっていないか、元気がないように見えないか。
- 顔色・表情: 顔色は悪くないか、目の下にクマはないか、目は充血していないか。
- 皮膚の状態: 発疹や湿疹、不自然なアザなどはないか。
- 呼吸の状態: 咳や鼻水は出ていないか、呼吸が苦しそうではないか。

##### 活動中の視点

- 食欲: いつもより食べる量が少くないか、食事中に吐き気をもよおしていないか。
- 活動量: 好きな遊びに興味を示さない、すぐに横になろうとするなど、活動性が低下していないか。
- 排泄物: 便がいつもより緩くないか(下痢)、色や匂いに変化はないか。
- 体温: 必要に応じて検温し、平熱を把握しておく。

##### 【重要】

これらの「いつもと違う」サインに気づいたら、一人で判断せず、必ずチーム内で情報を共有し、保護者への連絡や、必要に応じた医療機関の受診を検討します。

##### 【リフレクション・ワーク】

あなたが担当している子どもについて、その子の「平熱」「アレルギーの有無」「普段の機嫌や活動量の様子」などを具体的に書き出してみましよう。その子の「いつも」の状態を深く知ることが、「いつもと違う」に気づく第一歩です。

【講師用原稿(スクリプト)】(想定時間:120分)

はじめに(10分)

皆さん、こんにちは。基礎研修第14回を始めます。本日のテーマは「感染症対策と健康管理」です。私たちの仕事は、子どもたちの発達を支援するという、非常にクリエイティブで楽しい側面がある一方で、子どもたちの命と健康を預かるという、非常に重い責任を伴う仕事でもあります。特に、集団生活の場では、感染症という目に見えない敵が、常に子どもたちの健康を脅かしています。今日の研修は、その見えない敵から子どもたちを守るための「見えない盾」を、皆さんが身につけるための時間です。

少し専門的な内容も含まれますが、これは子どもたちの笑顔を守るための、私たち専門職にとって必須の知識と技術です。しっかりと学んでいきましょう。

敵を知る: 主な感染症の知識と対応(30分)

感染症対策も「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」です。まず、敵であるウイルスが、どうやって私たちの体に侵入してくるのか、そのルートを知る必要があります。

お手元の資料にあるように、主なルートは「飛沫」「接触」「空気」の3つです。

特に、私たちが日常的に最も警戒すべきなのは「接触感染」です。子どもたちは、色々なものを触ったその手で、無意識に目や口を触ります。だからこそ、後で学ぶ「手洗い」や「消毒」が非常に重要になるのです。

次に、具体的な敵の名前と特徴です。

お手元の資料には、特に集団感染を起こしやすい代表的な感染症をリストアップしました。ここで重要なのは、それぞれの症状を知っておくことはもちろんですが、専門職として「登園の目安(出席停止期間)」を正しく理解しておくことです。

「熱が下がったから、もう大丈夫だろう」といった、個人の感覚で判断してはいけません。施設全体の安全を守るために、私たちは法律やガイドラインに基づいた、統一されたルールで対応する必要があります。そのための拠り所となるのが、この基準です。保護者の方にも、この基準を基に、分かりやすく説明することが求められます。

バリアを張る: 実践的な消毒・清掃(40分)

さて、ここからは、ウイルスが施設内に侵入・拡散するのを防ぐための、具体的な実践スキルを学びます。

中でも、全職員が絶対にマスターしなければならない最重要スキルが、「嘔吐物の処理」です。

(声のトーンを一段と真剣にする)

ノロウイルスなどに感染した人の嘔吐物の中には、何億という数のウイルスが含まれています。そして、そのウイルスは、たったの10個程度でも、人の体に侵入すれば感染を引き起こすと言われています。

もし、この処理を不適切に行い、乾燥した嘔吐物が空気中に舞い上がってしまったら...あっという間に大規模な集団感染を引き起こします。嘔吐物は、いわば「ウイルスの爆弾」です。その爆弾を、安全かつ確実に処理する技術を、私たちは身につけなければなりません。

(講師は、実際に処理セットを手に取り、デモンストレーションを行いながら、テキスト資料の手順を一つひとつ丁寧に解説する)

「まず、自分の身を守ることが第一です。ためらわずに、マスク、手袋、エプロンを装着します。」

「そして、絶対にやってはいけないのが、乾いた雑巾でゴシゴシ拭くことです。ウイルスが飛び散ってしまいます。『静かに、広く、使い捨て』が原則です。」

「消毒に使うのは、アルコールではありません。次亜塩素酸ナトリウムです。ノロウイルスにアルコールはほとんど効きません。この違いを知っているかどうか、プロと素人の分かれ道です。」

「可能であれば、この後、実際にグループでシミュレーション訓練を行ってみましょう。」

休憩(10分)

少し緊張感のある内容でしたので、ここで10分休憩します。しっかり手洗いをしてくださね。

変化を見逃さない: 日々の健康観察のポイント(25分)

さて、最後のテーマは、感染症の発生を早期に発見するための「健康観察」です。

子どもは、自分の体調の変化を「先生、なんだか頭が痛くて、体がだるいんです」とは、なかなか言えません。彼らの不調は、「いつもと違う」という、非言語的なサインとして現れます。

私たちの役割は、そのサインを見逃さない、名探偵のような観察眼を持つことです。

そのためには、まず「いつも」の状態を知っておく必要があります。

「Aちゃんは、普段は食欲旺盛だけど、今日は大好きな唐揚げを残している。これはおかしいぞ。」

「B君は、いつもは元気いっぱい走り回っているのに、今日は部屋の隅でゴロゴロしている。何かあるな。」

このように、「いつも」という基準線(ベースライン)が頭に入っているからこそ、「いつもと違う」という変化に気づくことができるのです。

お手元の最後のワークに取り組んでみてください。あなたが今、一番気になっているお子さんについて、その子の「いつも」を書き出してみましょう。この、一人ひとりの「いつも」を深く知ろうとすることこそが、健康管理の第一歩であり、愛情の証でもあります。

まとめ(5分)

皆さん、お疲れ様でした。本日は、感染症対策という、子どもたちの命と健康を守るための、非常に重要な知識と技術について学びました。

感染症対策は、時に地味で、手間のかかる作業に見えるかもしれませんが、しかし、その丁寧な手洗い、念入りの消毒、そして何気ない日常の中での注意深い眼差しが、子どもたちの元気な笑顔と、保護者の安心を支えています。

私たちは、子どもたちを守る「見えない盾」です。今日学んだ知識を武器に、明日からも、子どもたちのための最も安全で、安心できる環境を守り抜いていきましょう。

本日はありがとうございました。